

第5回下川町総合計画審議会（産業経済部会）会議録

日 時 令和3年12月16日（木）

18：40分～20：15

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

＜農林課＞

出席者（委員）：及川部会長、三津橋副部会長、渡邊委員、田中委員、山田委員

出席者（町）：古屋課長、高原主幹、高野主査、今主査、倉澤主任

事務事業名「森林組合事務所整備補助事業」

委員：森林組合の事務所は、新築以外の方法は考えないのか。公区会館などを修理して使用出来ないのか。新築でなければならないのか。

町：改修した場合5,000万円位は掛かる。仮に除却して別な場所へ移るという考えの場合、公区会館では、りんどう会館が可能性としてあり得る。建て替えについては、森林組合理事会の話し合いの結果、満場一致ではないが、新築となった。何故、新築なのかという声も聞く。建て替えにあたり、町が補助する、その補助金が生きたものにするために、単純な整備支援だけとは考えておらず、循環型森林経営を進めていき、現場の人間を牽引し、生きた投資にして欲しいと考えている。林業従事者の減少により機械導入などを進めてきた。これまでの努力はわからないが、森林組合は、地域の中核的存在として捉えている。森林組合の在り方も含めて存在意義を考えていただくための建て替えでもある。

委員：林業総合センターの指定管理を受け、耐用年数を過ぎたところで別な場所に移ることに対しては異論無いように感じる。町は48%出資しており、森林組合に対して権限を有しているが、これまで言及出来ていない。それは、町だから強く出られないのか。減資した分、他から充当しなくて良いのか。

町：一般法人であれば引当金を積みなければならない。減資すれば信用不安も起こるかも知れない。48%については、配当をそのまま資本充当していたのが、この割合になったと思われる。減資することに異論はあるのは確かである。その結果を生んだのも森林組合だということも、ご理解いただきたいと思っている。今の事業体制で

良いのかどうか。組合員、理事会ともに考えていただきたいと思っている。減資分は他に使うことはせずに、基金に積み、森林組合のために使うことを考えている。現状、配当は町の一般会計に充当している。

委員：新築は今のところの判断か。

町：その通り。

委員：建物が完成するまで森林組合はどこに行くのか。

町：りんどう会館になる。

委員：まちおこしセンター「コモレビ」など、一体となった木質バイオマスなども進めることを考えて欲しい。

事務事業名「林業・林産業拠点構築事業」

委員：人材はどのような人を雇うのか。非常に難しい役割を担うこととなる。雇った後、フォローアップが無いと雇われた人がもたないので心配に思う。

町：町職員と2名の派遣を考えている。経営改革室のようなものを設置し、組合長の直轄でと思っている。送り込んだ方に対しては、町としてもバックアップしていく。現状、出資金の割合は高く、町の立場として良い意味の圧力をかけていきたい。

委員：森林組合については、期待と心配をしている。

事務事業名「有害鳥獣捕獲従事者確保事業」

委員：地域おこし協力隊で入った後、任期満了後はどうするのか。

町：3年間の具体的なカリキュラムは未定だが、1年中、エゾシカは狩れる。ヒグマは4月から11月まで狩れる。アライグマ、キツネの扱いもあるので、そのような業務や農林課事務に携わってもらうことも考えている。下川町に定住してもらえるように支援したい。町として選択肢を提案し、例えば、町の会計年度任用職員として働きながらなども想定している。

委員：会社勤めなどの社会人なら、ハンターは無理だと思う。時間的な制約もあり厳しい。

委員：生き物を殺して生計を立てるのは精神面でも厳しいと思う。地方からハンター希望者を呼ぶのも正直怖く感じる。町として成功するイメージは持っているのか。他の自治体の成功事例はあるのか。

町：町の臨時職員から正職員になることは、昔はあった。3年後に町の業務や一事業者

として生活可能な環境を与えられることが出来ればと考える。銃を持ち、住民の安全を保つ役割として来町されたハンターが、町に残るためにあらゆる支援、可能性を考えていきたい。ハンターの高齢化が進み、最年長は85歳。危機感をもっている。ハンターの確保策を模索しながら、人探しを進めないと手遅れになる。

委員：一の橋はヒグマの気配が身近に感じるようになってきた。ハンターは必要不可欠だと感じる。地域おこし協力隊でも良いが、町民の中からハンターになっていただけなのが理想的だと思う。ハンター1人1人の負担が少なくなり、安全を保てるように、気軽にハンターに接することが出来る機会を持つのはどうか。町としても興味がある人を見つけて欲しい。町民とハンターが話をする機会を持ってもらいたい。

町：今後、検討しても良いかも知れない。銃を持たないハンターとしても手伝う人が増えてくれることも考えたい。

委員：町民の理解を得られるように、広報を通して町民に周知し、農林業の被害を減らして欲しい。人が好まない仕事をするということを評価する仕組みを作って欲しい。下川町に対する貢献が見えるようになり、感謝されるような内容も盛り込んで欲しい。

事務事業名「新規就農者等支援事業」

委員：1人就農について、団地化には賛成である。女性も入りやすいのではないか。補助内容などは実施してみないと分からないことも多い。新たな可能性が広がるのは良いことだと思う。

町：4月から2件、酪農と耕種でそれぞれ新規就農研修希望者がいる。就農研修と就農時に使用するお金は、それぞれ地域おこし協力隊として出すものと町の貸し付けで出すものがある。就農時には補助金がある。

事務事業名「農産物加工研究所運営事業」

委員：農産物加工研究所について、今年は、猛暑の関係や玉の小さな状態などで、厳しい状況だったと思う。冷凍庫の状態はどうか。

町：急速冷凍機はガスが少なくなり、今回壊れたものは部品が無いことから使用していない。冷凍は20度以下にならず12℃以下で使用している。